

1月のアルミレポート及び2月の見通し(3)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



■概況

【自動車】12月の四輪車生産台数は78万1,378台で、前年同月比+4.2%となり3カ月連続前年同月を上回った。輸出は42万2,836台で前年同月比2.7%の増加。

【販売】12月の国内自動車販売台数(軽を除く)は30万2,988台で前年比+1.8%。4カ月連続プラス。内、乗用車+2%、貨物-0.1%、バス-6.5%。

【住宅】平成28年12月の住宅着工戸数は78,406戸で、前年同月比で3.9%増となった。また、季節調整済年率換算値では92.3万戸(前月比3.2%減)となった。住宅着工の動向については、前年同月比で6か月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、分譲住宅ともに増となった。

【持家】前年同月比では11か月連続の増加(前年同月比6.5%増、季節調整値の前月比では19%減) 【貸家】前年同月比では14か月連続の増加(前年同月比2.2%増、季節調整値の前月比では10.3%減) 【分譲住宅】前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比4.6%増、季節調整値の前月比では1.4%増)。

▶分譲マンション：前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比10.7%増)。▶分譲一戸建住宅：前年同月比では14か月連続の増加(前年同月比0.6%増)。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比+5.9%の6万5816t。3か月連続プラス。出荷は+3.1%の6万6,030t。3か月連続プラス。内、出荷先は、鋳物+1%、ダイカスト+3.7%、板-5.5%、押出+6.8%、鉄鋼+11.4%、合金地金メーカー+4.4%、輸出、+5.9%。

【アルミ圧延・押出品生産数】+4.1%、2か月連続プラス。16万6,996t。▶板類：生産・出荷とも2か月連続でプラス(出荷は前月の+4.0%⇒+2.2%) (1) 缶材33,624t(2.5%)。低アルコール飲料の好調等により、2ヶ月連続でプラス (2) 自動車13,038t(4.8%)

(3) 輸出16,080t(-8.6%)。内需好調に伴う輸出の減少により、4か月連続でマイナス。▶押出類：生産・出荷ともプラスに転ず(出荷は前月の-1.2%⇒+7.9%)。アルミパネルを含む乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調により、5か月連続でプラス(11月の軽自動車を除く国内乗用車生産台数：623千台、前年同月比：+14.3%)。▶建設：39,820t(4.7%)。プラスとなったが、前年の数字が低かったことによるもので、輸入品(サッシ以外の構造物)やアルミ・樹脂複合サッシの増加等により需要は弱含み

(11月の新設住宅着工戸数：85,051戸、前年同月比：+6.7%)。▶自動車：11,255t(7.3%)。乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調が継続し、プ

ラスとなった。

【輸出】アルミ新地金が前年比+162.2%の236t。二次合金が+47.4%の2380t。スクラップが+43.7%の1万1402t。アルミ缶が+28%の5460t。

【輸入】アルミ新地金が前年比+25.2%の12万9165t。二次合金が+16.1%の10万1468t。スクラップが-47.7%の392t。合金スクラップが-30.3%の2514t。

【見通し】自動車は生産が+4.2%。1月の国内販売台数が前年比+1.8%。生産が3カ月連続プラス、販売も4カ月連続プラス。生産、販売共に1ヶタ増加に減少しており今後の動向に注意が必要。住宅着工の動向については、前年同月比で6か月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、分譲住宅ともに増となった。今後も期待。アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績では生産出荷ともに3か月連続プラス。輸出は後半の大幅円安要因を受けて全品種増加。輸入では前半の円安から地金、合金は増加したが後半の円高からスクラップは減少。

【スクラップ需給予想】先月に続き流通在庫は、自動車販売、住宅着工が比較的好調な上、トランプ政策による不透明感はあるものの、足元は原料が急に増える数も無く輸入塊が急騰した事から国内玉ヘシフトが進んでること、また来年1-3月の入札に向けての原料確保から今月も需給は引きしめる。

【価格・為替予想】今月はトランプ米大統領の発言・政策と旧正月明けの中国の動向に左右される。トランプ米大統領に関しては、目先の混乱が続く。入国禁止令、対ドル通貨政策、景気対策などあるが、入国禁止令が自他ともに認める米国建国の精神に反するものであることから混乱はしばらく続く。故に結果が先の経済対策を発表しても反応は限られるのではないかと。中国に関しては、米との海洋問題、為替問題、貿易摩擦など抱えており、またすべてを中国が飲むとは思えず中国経済にも悪影響がでるのではないかと。それらを踏まえた2月のアルミ価格は、トランプ米大統領が米国入国禁止令を大幅解除し、中国との摩擦が一旦治まった場合、1月一段高の1,900ドルを予測。いずれかの場合は1,800ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合1月後半安値の1,700ドル。為替は米トランプ大統領の為替発言や景気対策発言次第ではないかと。それらを踏まえ予測では、円高はトランプ米大統領の円安けん制発言がなされ、景気対策に目新しさがなかった場合1月後半高値一段高の111円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合現状の118円台を予測。スクラップ購買価格に関しては0~+10円程度と予測している。